
端的に物事を語れるほど、僕らは現実を知らない。

ヤマダゴロウ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

端的に物事を語れるほど、僕らは現実を知らない。

【Nコード】

N3105A

【作者名】

ヤマダゴロウ

【あらすじ】

とても短い話です。恋愛…かなあ??きみとぼく。憧れ。希望。たまにはこんなのも。

いつも見る悪夢がある。

大抵は覚えてないんだけど、起きるといつも胸が締め付けられる
ような衝動にかられるんだ。

分かっているんだ。

君がいないことは。

分からないんだ。

どうして君がいないんだ？

「嫌いじゃない」

とか

「好感を持つてる」

とかじゃ駄目なんだ。

ただ一言でよかったのに…。

「好きだよ」

ねえ、君が好きなんだ。

好きなんだよ。

愛していたんだ。

その一言を、君に伝えられたら、何か変わっていただろうか。

物言わぬ君の亡骸を抱き締めながら、僕はただただ後悔の念にか
られていた。

「こんな事になるのなら、もっと早く…っ!!」

でも僕は、こんな事になるなんて思いもしなかった。想像すらし
なかった。出来るわけじゃないか。僕には君だけなのに…っ!!

何故ただそれだけの事なのに、あなたに伝えられなかったのかな
あ。

カサリと紙が捲られた。

伏せられた睫から覗く君の瞳を見つめながら、ただただその時を
待つ。

カサリ

「あんださあ…。」

「ん」

諦めのように溜め息を溢された。自然に肩に力が入るのを感じる。

「何が書きたかったわけ？」

来た…。

「何が言いたいのよ？」

「はあ…。」

「はつきりしないわね。この文と同じだわ。だらだらだつらだつら書き綴れば良いってもんじゃないのよ。大体何？このまわりくどい説明。」

そう言つて僕の前にドンっ！！と紙の束を投げ出した。

「書きなおしてらっしゃい」

「はあ…。」

また駄目だったかと僕は溜め息をついた。もうやめようかな。無意味だよ。才能がないんだ。

「あと…。」

立ち去ろうとした僕を、彼女は呼び止めた。まだ何か言い足りない事があるのだろうか。勘弁してほしい。「前回よりは確実に上手くなってる」

そうして彼女は柔らかに笑むのだ。

「がんばれ」

その一言で、僕は気分が浮上する。我ながらなんて単純…。

まったく…。僕は、確実に君の掌で踊っているよ。なんていう事だ。

完。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3105a/>

端的に物事を語れるほど、僕らは現実を知らない。

2010年10月11日14時50分発行